川崎市議会議員（麻生区）
http://www.tsukimoto.info

月本たくや

レポート【第 10 号】

月本たくやレポート編集部　〒215-0031　川崎市麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101
TEL：044-986-6010　FAX：044-986-6011　Email：mail@tsukimoto.info

市民がスマートに暮らせるまちへ

スマートなのはエネルギーだけ？

現在、川崎市役所内では、「スマートシティ構想」策定に向け、様々な調査・議論がされています。市の構想の特徴は、生活課題解決というより、再生可能エネルギーの利活用の可能性に議論が集中している点です。私は、川崎市独自の取り組みと、市民が実感を持てる課題をスマートに解決するモデルを構想に追加する必要があると考え、教育や交通などの分野を例に挙げて、提案を進めています。

✔スマートシティとは

より賢い手法・技術で地球環境に優しい状態を実現した都市のことで、市民の生活の質を高めながら、健全な経済活動を促し、環境負荷を抑えながら継続して成長を続けられる、新しい都市の姿を指します。

オランダのアムステルダム、シンガポール、マルタ、韓国の仁川などの取組が有名です。

市民生活の全体のスマート化へ

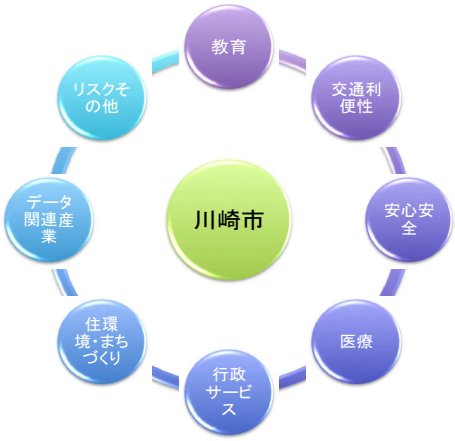
私は、川崎市全体でのスマートシティ化による市民生活全体のスマート化が必要と考えます。基本方針として低炭素社会の構築へ向け、再生可能エネルギーの導入、電気や熱の効率的な利用、環境に配慮した交通システム、更には市民のライフスタイルの転換などを複合的に組み合わせ、利便性・快適性の向上、安全・安心の確保にもつながる川崎らしいスマートシティの構築を目指します。

2つの基本方針があります。まず、市民の生活環境の改善が見えるスマートシティの仕組みづくり、そして、スマートシティ産業の振興です。

川崎市に必要なスマートシティは 生活者目線のスマートシティ

都市間競争が激しくなる中、新たな都市モデルを模索する動きが世界中で見られ、中でも、”スマートシティ”と呼ばれるまちづくりを目指す都市が、数多くあります。

日本のスマートシティは、エネルギーの効率利用に重点が置かれていますが、そもそもスマートシティは、「持続可能」という観点が基本にあり、生活者目線を抜きには語れないはずです。また、市民生活全体右図にあるように、教育、交通、安心安全、医療などの幅広い領域での具体的な改善につながる内容とすべきです。



【スマートシティ構想イメージ】

いまもなお、人口が増えている川崎の抱える課題は数多くありますが、

その多くが都市化の進行により人口が一極集中することに起因するものです。これらの課題を、高額なインフラの整備なく、エネルギー分野を中心としたICTによってある程度解決することができれば、それがすなわち「川崎モデル」のスマートシティと考えます。

市民生活の全体のスマート化に向けての成果

昨年度来、これまで、実務家と一緒になったスマートシティに関する研究会、市役所との議会での質問、各種視察などを通じ、生活者目線でのスマートシティの実現へ向けて活動を行なってきました（下図参照）。**結果として、市当局から市域全体のスマート化と、市役所内での専門部署設置という動きを引き出すことに成功しました。**

◎スマートシティ実現に向けた動き◎

スマートシティ研究会発足

（主宰：月本）

・平成23年８月～(月１回開催)

★　専門家・実務家などで組織

★　現在、教育・行政サービス・安全安心の３分科会で研究。

先進事例視察

・愛知県豊田市

・韓国ソウル市

・韓国仁川市

・オランダ　アムステルダム市

平成23年９月　代表質問
市域全体のスマート化(副市長答弁)
スマートシティ検討委員会発足(市長答弁)

平成24年２月　代表質問
市域全体のスマート化に向けた協議組織の発足(市長答弁)

平成24年４月　スマートシティ戦略室発足
(平成23年９月代表質問で提案)

平成24年８月　スマートシティ構想に向けた取組報告
エネルギー、生活、都市基盤、交通を始めとして多様な分野でスマートシティの実現に向けた検討を進めることになった。
エネルギーに限定されないスマート化の提案が形になりつつある。

【平成23～24年度　私のスマートシティに関する活動と中間報告】

スマートシティ研究会での議論

大きく3つのステップでの議論を進めました。議論には、有識者、実務者が参加してもらい、現状と課題の整理、実現へ向けて実践的な戦略についての議論をしました。

1. スマートシティに関する動向の確認

昨今、国内外で進められているスマートシティの動きを研究し、昨今の特徴は、エネルギーの利活用を中心としたプロジェクトが進んでいることを確認しました。基本的なスタンスとして、エネルギーの利活用はもちろん、市民が生活環境の向上が実感できるスマートシティの姿を議論していくことを決めました。

2. 川崎市での政策上の動き、ポテンシャル、市民意識などの分析

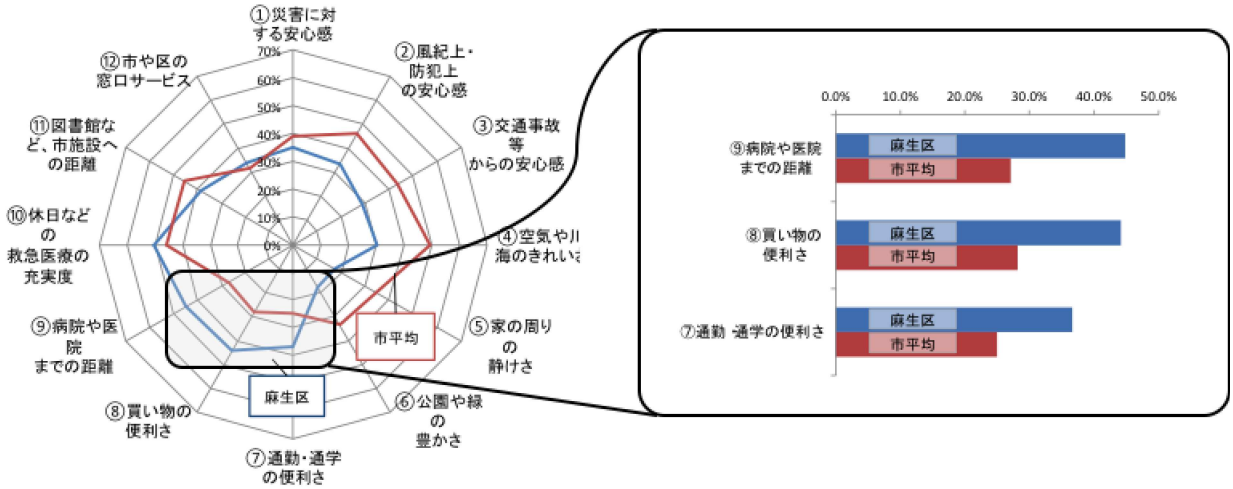
川崎市フロンティアプランを始め、現在の川崎市役所内で進められている環境、エネルギーなどの施策を分析しました。結論として、このままでは、エネルギー利活用中心のスマートシティの仕組みになるため、施策全体に係るスマートシティ像を構築することを決めました。市民意識では、市民ヒアリング、川崎市実施の市民意識調査の再分析を行い、市域それぞれで生活課題はばらつきがあることを確認しました。

【調査結果の紹介（一部）】

＜川崎市　市民意識調査にみる麻生区での市民の不満状況＞

麻生区では「通勤・通学の便利さ」「買い物の便利さ」「病院や医院までの距離」などにおいて、大きな不満があり、他方で「空気や川、海のきれいさ」「公園や緑の豊かさ」などの満足感は高いことが分かりました。

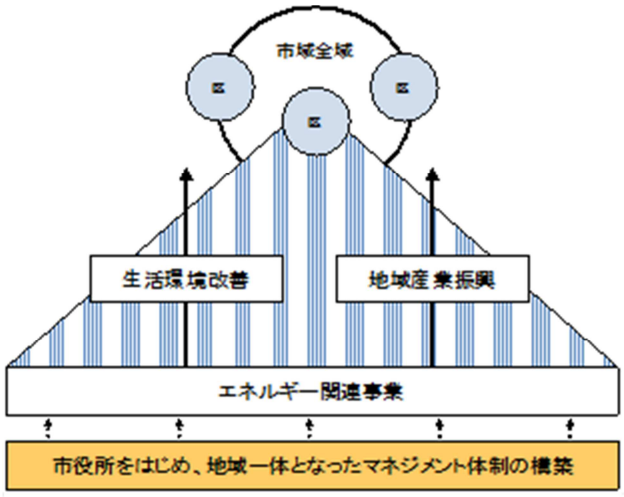
「麻生区」は、他の区に比べて、自然環境に満足度は高いものの、交通の便に不満を抱えているエリアと言える、という結果でした。



3. 私たちが考える「スマートシティ」構想について

市民生活環境の向上が感じられるスマートシティ、市域それぞれの課題に対応した事業展開が必要なことを議論しました。そこで、以下の内容で取りまとめました。

- ◆ **エネルギー・地域産業振興・生活環境の三本柱での「スマートシティ」構想が必要**
- ◆ **川崎市には、市全域での展開及びブロックごとでの展開が必要**
- ・ **エネルギーを中心としたスマートシティ構想では、市民の生活環境改善に直結しているといいづらく、想定する範囲をより広く取っていくべきであると考えます。**
- ・ **市域が広く、改善する生活環境の課題が多岐に渡るために、市域全体及び区ごとの特性に沿ったスマートシティ構想の展開が必要であると考えます.**



私たちチームで考える「スマートシティ構想」

先進地視察～国内外への先進地視察の実施

アムステルダム市（オランダ）、仁川経済自由区域・ソウル市（韓国）、愛知県豊田市、日本 IBM などへの視察を行いました。アムステルダム市では、市全体としてのスマートシティの進め方を視察しました。エネルギーを中心としながら、市民生活全体がスマート化している状況を視察しました。仁川経済自由区域・ソウル市（韓国）では、教育政策、交通政策などを中心とした、スマートシティの先進事例を視察しました。愛知県豊田市では、自動車を中心としたスマートシティの進め方を視察しました。自動車という地域性に特化したスマートシティのあり方を視察しました。日本 IBM での先端技術の動向などを視察しました。

議会質問：スマートシティから教育まで地域の発展へ向けた幅広い質問

◇コミュニティ交通の普及促進
（平成 23 年 7 月　第 3 回定例会一般質問）
Q（月本）:導入促進に向けた現状の課題と対策は？
A（市当局）:採算性の確保や既存バス路線との競合などが課題である。今後は事例を踏まえながら、引き続き地域の主体的な取り組みに対し適切に支援していきたい。

◇二重行政と新たな特別市
（平成 23 年 7 月　第 3 回定例会一般質問）
Q（月本）:国や県との二重、三重行政が無駄やサービスの停滞などを生んでいるが課題は？
A（市長）:基礎自治体の自主性・自立性を高める分権型の行財政の仕組みを構築して、効果的・効率的な行政サービスの提供や透明性の向上を図ることが必要である。

◇狭あい道路の拡幅整備
（平成 23 年 12 月　第 5 回定例会一般質問）
Q（月本）:拡幅整備について今後の方針は?
A（市当局）:新築や建て替えに合わせて拡幅整備を促進しつつ、パンフレットなどの活用や窓口相談などの機会に、拡幅用地の市への寄付が検討されるよう周知したい。

◇スマートシティのモデル事業
（平成 23 年 12 月　第 5 回定例会一般質問）
Q（月本）:バス交通のスマート化（賢い手法・技術で環境に優しい最適化を図る）の考えは？
A（市当局）:環境への負荷が少ない車両の開発など、スマートシティの構築に資する、効率的で環境に配慮した交通体系の実現に向けた取り組みを進めていきたい。

◇ＩＣＴ活用と国際教育プログラムについて
（平成 24 年 3 月　第 1 回定例会予算委員会質問）
Q（月本）:ICTに限らず、ALT（外国語指導補助）も含め、国の指導による整備が多いが、学校レベルまで浸透できていない。整備をしてから考えるのではなく、目的をしっかり持ってから、整備を進めるべき。オーストラリア・コリア・コネクション（AKC）のような国際教育プログ
ラムを川崎市でも導入できないか？
A（市当局）:先進的な実践校の情報を収集するとともに、様々な教育環境整備の充実や教師の授業力の向上を含めた研究を進めて参りたい。

平成 24 年 9 月 26 日決算審査特別委員会にて

◇体験型農園の運営支援
（平成 24 年 6 月　第 2 回定例会一般質問）
Q（月本）:運営農家への負担が大きいが、効率的・効果的な運営に向けた市の対応は？
A（市当局）:開設時に水道、トイレなどの整備経費の50％を上限に補助金を交付している。今後も体験型農園の拡充を進め、市民が農に親しむ環境づくりに努めていきたい。

◇川崎ウェディングの提案
（平成 24 年 6 月　第 2 回定例会一般質問）
Q（月本）:市有施設を活用し、川崎に結婚式を誘致する施策を進めては？
A（市当局）:川崎市イメージアップ認定事業等の活用を進めていきたい。

◇映像のまち・かわさきの推進
（平成 24 年 6 月　第 2 回定例会一般質問）
Q（月本）:若手の登竜門となる映画のコンペティションの開催を検討すべきでは？
A（市当局）:団体主催の取り組みを支援することで、今後も映像のまち・かわさきを実感できるよう推進していきたい。

◇公営保育所の民営化
（平成 24 年 9 月　第 3 回定例会決算委員会質問）
Q（月本）:認可保育所の運営経費で、公営と民営の主な差は人件費になっており、積極的な民営化が課題解決につながるため、検討すべきでは？
A（市当局）:現在も民営化を進めているが、今後も職員の退職動向等を考慮しながら、検討を進めていきたい。

月本たくやプロフィール

昭和 53 年　大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。
川崎市長 阿部孝夫 政務秘書、衆議院議員 山内康一 公設第二秘書（麻生区・国会担当）、みんなの党本部事務局（兼任）を経て、平成 23 年　川崎市議会議員初当選。
現在　川崎市議会議員（麻生区選出）　みんなの党川崎市議会議員団 副団長　みんなの党川崎市議会第 1 支部長
NPO 法人防災・防犯ネットワーク理事・麻生支部長　麻生区白鳥在住　家族：妻　血液型：A 型

月本たくや事務所
麻生区栗平 1-5-32 ベアーズハイム 101 号
TEL 044(986)6010　FAX 044(986)6011

月本たくや　検索